

【全体概要】 産地の高齢化や労力不足が進むなか、ごぼう産地が縮小傾向であり、特に厳寒期はトンネル被覆や開閉作業が必要であることから面積拡大がなかなか進んでいない。一方、本県の若掘りごぼうは、出荷時に葉柄を残して「新ごぼう」の名称で区別販売される商品であり、需要は高い状況である。そこで、省力で良食味である本県育成の新品種「サラサラごんぼ」を導入し、安定生産技術確立と消費拡大により、県内のごぼう産地拡大を進める。

新品種・新技術等の概要

○新品種「サラサラごんぼ」

福岡県農林試で育成された冬どり作型、春どり作型ともに、トンネル被覆なしでも葉が枯れないという特徴をもつ品種。トンネル被覆した「渡辺早生」と比較して、低温期での根の肥大が良好で、根は重く、収量も多いである。



○長期安定出荷のため、1～2月出荷の冬だし作型の確立

県内4か所で実証ほを設置し、低既存品種「渡辺早生」と厳寒期の生育、収穫物の重量等を品質について比較調査。

主な取組内容

【検討会】(6月、3月 計2回)

実証ほの設計、および成績検討会。

【実証ほ設置 4ヶ所】(3普及センター、4ほ場)

【現地検討会】(11月、12月、2月 計3回)

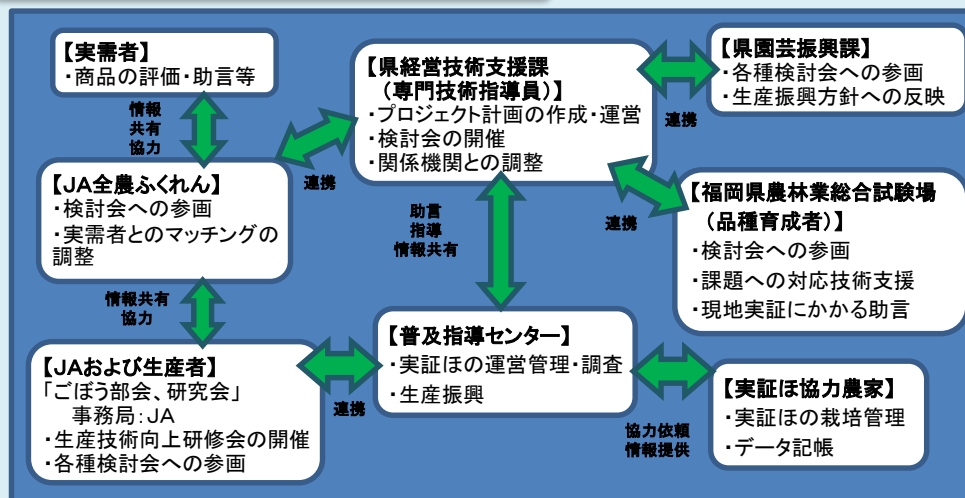
実証ほの生育状況確認、現地検討会を開催。

JA全農ふくれんと意見交換。

【先進地視察】(2月)

農業革新支援専門員が中心となり、先進地の鹿児島県を調査。

実施体制図



課題と今後の対応

【1年目の取組み】

- ・播種時期の異なる実証ほを設置し、8月下旬～9月下旬播種であれば、12月中旬～2月中旬までトンネル被覆なしで収穫可能であることが実証された。
- ・播種後の降雨の有無が発芽率に影響することが判明した。

【今後の対応】

- ・安定出荷のため、播種時期の再検討と種子冷蔵処理による冬だし作型の実証ほを設置。
- ・福岡県における安定生産技術確立のため栽培手引きを作成。